

## 令和2年 第102回多可町議会定例会 一般質問

(1日目) 12月17日(木) 午前9時30分から

質問順	質問議員	質問事項	答弁を求める者
1	大山由郎	子どもたちの食生活の充実を	教育長
2	門脇教蔵	NGI構想について	町長
		高齢者施策について	町長
3	橋尾哲夫	多可町老人クラブ連合会組織強化策について	町長
		アスパルのシャワー室を改修すること	町長
		新ゴミ処理施設建設を延期すべし	町長
4	山口邦政	水田営農継続支援金について	町長
		避難行動要支援者対策について	町長
		アスパルアリーナに空調設備を	町長
5	廣畑幸子	SDGs多可町の取り組みは	町長
6	藤本一昭	持続可能な地域社会づくりに取り組みと総合戦略との組み合わせ必要でないか	町長
		コロナ禍で診療所でのオンライン診察の推進を	町長
		広報「TAKA」と「たかテレビ」の広報活動についての展望を尋ねます	町長
7	市位裕文	多可町の買い物難民の今後について	町長

(2日目) 12月18日(金) 午前9時30分から

質問順	質問議員	質問事項	答弁を求める者
8	笹倉政芳	交流拠点の再整備を問う	町長
		事前防災で自然災害に備えよ	町長
9	清水俊博	大人の引きこもり対策と支援体制は如何に (相談から支援へ、具体的取組が今 必要)	町長
		ウィズコロナ、アフターコロナにおける多可町財政 (優先度を考慮し各種事業の精査が必要では)	町長
10	門脇保文	多可町南玄関口整備事業 西脇市に抜けるトンネル化構想	町長
		多可町内の税の配分化	町長
		焼却炉建設について	町長
11	加門寛治	新型コロナウイルスの感染について	町長
12	酒井洋子	だれも取り残さないまちを	町長
		利用の視点でバス停の整備を	町長
13	日原茂樹	地域商社で多可町創生に取り組み	町長
		学力向上の取り組みは進んでいるのか	教育長

# 一般質問通告書

【第102回定例会】


多可町議会議長 吉田政義 様  
多可町議会議員 大山由郎 

受 領 日	番号
令和 2 年 11 月 24 日 午前・午後 8 時 30 分	/

質 問 の 項 目 及 び 要 旨	答 弁 を 求 め る 者
1. 子どもたちの食生活の充実を	教育長
<p>今日、着実に超高齢化社会へ歩みを進める中、すべての住民が各自の食生活を管理する能力を持つことや、適切な食行動がとれるようになる事が重要な課題となっている。健全な食生活の実践を支援する環境づくりを進めるため、平成12年3月には、当時の文部・厚生・農林水産の三省協同で「食生活指針」が策定され、普及・啓発活動が進められてきた。またその間に、食育基本法の制定、第二次「健康日本21」の開始、そして、平成28年3月に第3次食育推進基本計画を作成し、同年6月には食生活指針も一部改定され、食生活や健康に関する国を挙げた取り組みがなされている。</p> <p>①学校における「食に関する指導」のねらいは何か。 ②子どもの食生活の問題点をどうとらえているか。 ③食生活に関する指導の充実を目指せ。 ④子どもの食生活の支援のためには、各学校における保護者と一体となった創意工夫ある取り組みが必要だ。</p>	

# 一般質問通告書

【第102回定例会】


多可町議会議員 吉田政義 様  
多可町議会議員 門脇教蔵 

受 領 日	番号
令和 2年11月24日 午前・午後 8時30分	2

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
<b>1. NGI構想について</b>	町長
<p>ロバート・D・エルドリッチさん、平成2年4月に中町の外国語指導助手として来日され、中町中学校で2年間教壇に立たれ熱心に英語指導にかかわりを持たれました。その後氏は、地元の企業やNPOなどと連携して新しい品物やブランド、そしてシステム、政策などを生み出し、地域の発展につなげていく「NGI構想」はまさに長年地域を支えてこられた事業所との深いつながりの中で、地域全体の底上げを目指していくものであります。多可町もロバートさんの考えに夢を託したいとの思いから、平成29年10月に国際交流の親善大使・政策アドバイザーに任命されてから3年が経ちます。その成果は。今後、氏の考えをどのように反映されるのか。お伺いいたします。</p>	
<b>2. 高齢者施策について</b>	町長
<p>我が国は高齢化が急速に進展する中、いわゆる団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据え、高齢者が安心して暮らせる地域社会を作り上げていくことが極めて重要な課題となっております。そのためには、住み慣れた地域で自分らしい生活を継続するためのサービスを充実させるとともに、地域包括ケアシステムの構築へ向けた国・自治体との連携による取り組みが求められています。</p> <p>本町では、高齢者の生きがいづくり、社会参加の促進としてどのような施策が行われているのか、その現状をお伺いいたします。</p>	

# 一般質問通告書

【第102回定例会】

多可町議会議長 吉田政義 様  
 多可町議会議員 橋尾哲夫 

受 領 日	番号
令和2年11月30日 午前・午後 8 時 50 分	3

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 多可町老人クラブ連合会組織強化策について	町長
<p>多可老連の会員は年々減少しています。                      中区・八千代区においては老人クラブの無い集落もでています。                      少子高齢化が益々進み老人クラブそのものの存在意義すらなくなろうとしている昨今です。特に本年はコロナ禍での自粛ムードでのクラブ活動は大幅に制限され行事そのものが中止されています。各老人クラブが活性化すれば各地域も活性化され町全体に活気がでてきます。町長の答弁を求めます。</p>	
2. アスパルのシャワー室を改修すること	町長
<p>アスパルのスポーツジム室は運動器具がリニューアルされ、多くの町民の方がトレーニングにきています。新型コロナ禍の中、トレーニング後汗での着替えは風邪を引く問題があります。快適に使用するために早急にシャワー室の補修工事をすべきです。町長の答弁を求めます。</p>	
3. 新ゴミ処理施設建設を延期すべし	町長
<p>新ゴミ処理施設建設は平成28年6月23日、北播磨清掃事務組合から多可町議会全員協議会の席では1市1町で建設します。その説明内容は過去のデータを参考にして建設費用約51億円で、場所は中区の翠明湖周辺とのことでした。多可町議会での執行部の新ゴミ処理施設建設の議案上程はされていない。議会が賛成とは本会議で議案が上程され、生活環境常任委員会で審議され、本会議で可決されたことが議会の賛成です。議会は審議すらしていません。賛成していません。新ゴミ処理施設建設を延期すべきです。町長の答弁を求めます。</p>	

## 質 問 の 内 容

### 1 多可町老人クラブ連合会組織強化策について

(1) 多可老連に部屋の貸与について、以前一般質問しましたが、いまだ返事回答がありません。早急に貸与すべきです。近隣市では野菜の販売をして高齢者のやりがいと生きがいで組織が活性化しています。

(2) 組織の強化としては、会員増強です。町長は年度初めの区長会で加入勧奨を区長に要請すべきです。老人クラブの衰退は地域の衰退に直結しています。(3) 本年度はコロナ禍での各クラブの行事は自粛で大幅に削減や中止が多くなっています。予算の消化が出来ず苦勞されています。町からの助成金の返還要請はありませんね。

### 3 新ゴミ処理施設建設の延期について

(1) 加古川西部土地改良区理事長の変更がありました。西村氏から三宅氏に変更されました。翠明湖の水は農業用水ですよ。

11月26日全員協議会の中で、生活安全課から新ゴミ処理施設建設の経過報告がありました。加古川西部土地改良区からの意見書の回答は提出しましたとの報告でした。7項目具体的な回答内容を聞かせてください。

前西村氏は、新ゴミ処理施設は翠明湖のダムの下で建設されるものと認識されていたようです。翠明湖上の徳畑山では建設は反対されますよ。

協定書の締結はいつできますか。協定書が出来なければ当然新ゴミ処理施設建設は無理です。相手があつての建設ですよ。


建設規模は1日ごみ処理25トン2基建設で発電施設はなく、施設から出た熱を温水ハウス栽培する農家に供給するとのことです。30年間の維持管理費用の一部にもなりません。売電ができない規模では小野グループとの維持費用負担がさらに大きくなります。西脇・多可が先に新ゴミ処理施設を建設したので小野グループより建設費用維持管理料負担が倍以上になっても仕方がないですすみませんよ。北播磨住民が同じ負担同じサービスであるべきです。生活上で水道下水、ゴミ処理、医療の3本は生活基本です。

(2) 令和2年9月定例議会の一般質問で門脇保文議員の質問での町長回答は、距離基準において小野市長は理解され賛成されますが、加西市長と加東市長は反対されるので1市1町で新ゴミ処理施設建設をするとの回答でした。

加西市長と加東市長が距離基準に理解され賛成するとの確認が出来れば小野グループに参加されますね。

# 一般質問通告書

【第102回定例会】

多可町議会議長 吉田政義 様  
多可町議会議員 山口邦政 

受 領 日	番号
令和 2 年 11 月 30 日 午前・ <del>午後</del> 2 時 42 分	4

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 水田営農継続支援金について	町長
30a 以下が支給されていない根拠とは。 30a 以下も支給できるように制度改正が出来ないのか。	
2. 避難行動要支援者対策について	町長
・名簿の作成方法と配布先及び活用方法は。 ・個別支援計画の進展状況は。 ・要支援者の避難訓練の取り組み状況は。 ・福祉避難所との事前協議の進展状況と今後の計画は。	
3. アスパルアリーナに空調設備を	町長
アスパルアリーナに空調設備を設置して、町ぐるみ健診や災害時避難場所として快適に過ごせる場所にすべきでは。	

## 質 問 の 内 容

### 1. 水田営農継続支援金について

8月の臨時議会にて可決成立した水田営農継続支援金について、コロナ禍の中で酒米の山田錦が酒の消費減の影響を受けて販売が低迷し、価格低下や減産に追い込まれる現状や飯米についても価格の下落がみられ、生産者にしわ寄せが出てきている現状から、妥当な支援金と判断し賛成いたしました。

しかし、最近になって生産者の方から「支援金制度はなぜ30a以上となっているのか。小規模な生産者も一生懸命農地を守っていきこうと頑張っているのに、不平等感を抱く」との声をいただきました。そこで、30a以下がなぜ切り捨てられたのか。今からでも追加で30a以下の生産者にも支援金が給付できるように制度改正が出来ないか。町長の答弁を求めます。

### 2. 避難行動要支援者対策について

東日本大震災以降、ほとんどの自治体で災害時の要支援者対策について議論・検討やマニュアル作りを進めておられます。多可町でも要支援者名簿を作成し、各集落の民生委員さんや区長さん消防団等を中心に、自主防災組織の活動を通じて要支援者対策を進められています。要支援者対策が災害時に機能するような対策になっているのかの検証も含めて質問をおこないたいと思います。

1点目は、要支援者名簿についてです。

多可町においては要支援者名簿はすでに作成されていると把握していますが、名簿への掲載方法には一般的に手方式や同意方式などがありますが、多可町ではどのような方法で記載する要支援者を決定しているのか。また、要支援者名簿は事前にどのような関係者に配布しているのか。そして名簿はどのように活用されているのか答弁を求めます。

2点目は、個別支援計画についてです。

避難行動要支援者に対する個別支援計画の作成は義務化はされていませんが、多くの自治体では計画作成が進められています。多可町でも計画作成を目指していますが、進展状況はどのようなになっているかをお示してください。そして、計画作成に向けての問題点があれば答弁を求めます。

3点目に、有効な避難訓練についてです。

多可町では毎年災害時の避難訓練が行われていますが、災害時要支援者に対する避難訓練はどのような取り組みをおこなっているのか答弁を求めます。

4点目は、福祉避難所についてです。

福祉避難所は、避難行動要支援者が安心して避難生活を送れる場所となる必要があると思います。多可町でも昨年の7月に7団体に協力をお願いして福祉避難所の協定を調印し270人の受け入れが可能となっています。災害時にいきなり受け入れとなると混乱が生じる可能性が大です。福祉避難所となる事業所とどのように事前協議をしているのか、また今後どのように事前準備をしているのか答弁を求めます。

### 3. アスパルアリーナに空調設備を

生活習慣病の早期発見のための町ぐるみ健診は、各区に分散して受診していたのを、現在はアスパル1カ所を健診場所として実施されています。

混雑を避け効率よく受診してもらえるように事前予約制で、混乱なく事業が実施されていると思っています。

ところが今年の健診の時に高齢の方からこんな声を聞きました。「健診の途中で2階へ上がらなくてはならないが、2階へ上がるのが苦痛だ。職員の方はエレベーターを使って下さいと言われるが、遠慮があり階段で上がりました。広いアスパルなので1階で全てが済むようにならないのですかね」。皆さんが階段を使っておられる中で、エレベーターを使うのに遠慮があるようです。

広いアスパルアリーナがありながら利用できないのでしょうか。多分、夏場の暑い時期に冷房がないアリーナでは、受診者・医療スタッフ両方に体力的負担がかかるのが心配で利用されていないのではないのでしょうか。

そこで、アスパルアリーナに空調設備の設置を提案します。この提案は、町ぐるみ健診を1階の平場だけで快適に受けてもらえるというメリットだけではありません。コロナ禍の災害時の避難場所・避難方法について、見直し検討を求める声があがっています。町内の避難場所の多くは小中学校の体育館が指定されていますが、空調設備が整っていません。すべての避難場所に空調設備を完備と言っても多額の費用が必要で、一朝一夕には完備が難しいでしょう。快適な町ぐるみ健診と災害時の避難場所としての役目を考えた時に、せめて町内で1カ所だけでも早急に空調設備が完備した広い場所を準備しておく必要があるのではないのでしょうか。災害時の避難場所の空調設備導入の試算や検討をされたことがあるのか、なぜ空調設備の設置が出来ないのか、空調設備の完備の一步としてアスパルに設置できないか、町長の所見をお伺いいたします。



# 一般質問通告書

【第102回定例会】

多可町議会議員 吉田 政義 様  
多可町議会議員 廣畑 幸子



受 領 日	番号
令和 2年12月 3日 午前・ <u>午後</u> 2時20分	5

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. SDGs 多可町の取り組みは	町長
別紙参照	
2.	
3.	

## 質 問 の 内 容

多可町のSDGsの取り組みについてお聞きします。

SDGsとは、2015年9月に国連サミットで決められた、世界共通の目標で「この先の世界が今以上に良くなるために、2030年までに世界の人全員で協力して解決したい目標」のことです。

正式には「持続可能な開発目標」と言います。

SDGsには17の目標があります。

多可町では、第2期総合戦略でSDGsを多可町の地方創生の原動力とするため、地域創生戦略と紐付けし取り組みの推進を図るとしています。

「地域創生戦略Ⅰ」では「雇用の場を創出し、自分に合ったしごとができるまちへ」とし、8の「働きがいも経済成長も」9の「産業と技術革新の基盤をつくろう」を目指し、令和6年の町内事業所従業者数の目標値を2500人としています。

「地域創生戦略Ⅱ」では「すみたい田舎として新しい人の流れをつくるまちへ」とし、11の「住み続けられるまちづくりを」を目指し、令和6年の社会増減数の目標値をマイナス89人としています。

「地域創生戦略Ⅲ」では「結婚・出産・子育ての希望を叶えるまちへ」とし、4の「質の高い教育をみんなに」5の「ジェンダー平等を実現しよう」を目指し、令和6年の出生数の目標値を106人としています。

「地域創生戦略Ⅳ」では「健康・交流と安心・安全の魅力あふれるまちへ」とし、10の「人や国の不平等を無くそう」17の「パートナーシップで目標を達成しよう」とし、令和6年の観光交流人口の目標値を115万人としています。

この第2期総合戦略は、令和2年度から6年度までのもので、まだ始まったばかりですが、国でも推奨しているこのSDGsは2030年がゴールです。

そこでお聞きします。多可町では4つの戦略で数値目標はあげていますが、どのようなビジョンを持って取り組み、このゴールを目指すのですか。

総合戦略が5年間なので、また第3期にではなく、この小さい多可町に、もっと付加価値をつけ、選んでもらえるまちにするためにも、スピード感も必要なのではありませんか。

また今回選んでいない項目にも、ひろげられる可能性があるのでは無いですか。

# 一般質問通告書

【第102回定例会】

多可町議会議長 吉田政義 様  
 多可町議会議員 藤本一昭 (印)

受 領 日	番号
令和 2 年 12 月 3 日	6
午前・午後 2 時 30 分	

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
<p><b>1. 持続可能な地域社会づくりに取り組みと総合戦略との組み合わせ必要でないか</b></p>	町長
<p>コークゼミで地域共生の推進の取り組みとして過日「持続可能な地域社会の作り方」として講演がありました。本年決定した「多可町総合戦略」にある人口ビジョンⅡに地域創生戦略を決定されています。であるならばこれから町の施策として勢力的に地域共生社会を戦略に取り込んで推進すべきであると考えますが見解を求めます。そして、今後「自治体SDGsモデル事業」に参加のためにプランを策定中と伺いますがその方針を合わせてお考えを求めます。</p>	
<p><b>2. コロナ禍で診療所でのオンライン診察の推進を</b></p>	町長
<p>コロナ禍で医療関係施設及び福祉介護施設等では、本年に相当な感染対策を強いられています。特に高齢者を受け入れている施設では、高齢者の入所者が多いため日頃より診療所及び開業医への受診を利用されています。双方とも接触を減少して行く為にもオンライン診療の活用が求められています、ぜひとも推進すべきであると考えますが見解を伺います。</p>	
<p><b>3. 広報「TAKA」と「たかテレビ」の広報活動についての展望を尋ねます</b></p>	町長
<p>広報「TAKA」は、現在表紙と裏表紙2ページがカラー印刷ですが今後のカラーページを増やして見やすく理解しやすい広報誌へと推進が必要です。そして「たかテレビ」今後の視聴者の増加を図る事が求められています。今視聴については、E0光の加入が条件となっていますので、中区での視聴者が加入増加していない状況であります。ネットの環境整備は必要ですが、住民がネットを活用してYouTubeで「たかテレビ」の番組を視聴することを推進して増加を図ることができると考えますが見解を求めます。</p>	

## 質 問 の 内 容

1、本年9月にコークゼミの講演会が開催され地域共生の推進の取り組みとして「持続可能な地域社会のつくり方」として藤山浩氏の講演がありました。

本年3月に決定した「多可町総合戦略」の中にある人口ビジョンを基に「地域創生戦略Ⅱ及びⅢ」を決定されています。本年度から町の施策として勢力的に地域共生社会を戦略に取り込んで推進すべきであると考えますが見解を求めます。

そして、役場では内閣府の「自治体SDGsモデル事業」の採択のためにプランを策定中と伺いますが、その方針を合わせて地域と行政が共同して将来の安定した多可町を建設すべきであります、見解を求めます。

2、コロナ禍で医療関係施設及び福祉介護施設等では、本年に入って厳しい新型コロナウイルス感染症対策を強いられています。特に介護施設では、高齢者を受け入れておりますので、日常的に診療所や開業医のクリニックへの受診もなされております。この双方とも感染リスクを避けるために直接接触の減少が求められております。今こそ、オンライン診療の利用拡充が求められておりますが町長の見解を伺います。

3、広報誌「TAKA」は、現在34ページ中表紙と裏表紙2ページがカラー印刷ですが残りの32ページは2色刷りでありますがカラーページを増やしていくことで、見やすく理解しやすい広報誌を提供することが、求められていると考えます。

これと合わせて「たかテレビ」の視聴者の増加を図る事が長らく求められています。現在は、E0光との契約で「たかテレビ」が視聴できますが、中区での視聴者はあまり増加していない状況であります。今後は、情報伝達手段としてのケーブルテレビだけでなくITの活用が、必要であります。

そこで、これからは町内の住民のネット環境の向上を推進して、住民がネットを活用してYouTubeなどの動画サービスを視聴することによって、「たかテレビ」を視聴してもらうことを推進していくべきであります。

同時にYouTubeチャンネルにたくさんの番組をアップして、視聴の推進を図ることができると考えますが見解を求めます。

# 一般質問通告書

【第102回定例会】

多可町議会議員 吉田政義 様  
多可町議会議員 市位裕文



受 領 日	番号
令和 2 年 12 月 7 日 午前・午後 8 時 30 分	7

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 多可町の買い物難民の今後について	町長

多可町の著しい高齢者の増加を考えると、今後増えるであろう「買い物難民」の問題を

大変不安に思い質問します。

私たちの周辺でも、移動販売車に依る買い物の利用者が増えている様に思います。これは車でスーパーに行くことが困難な方が増えている証拠です。高齢者世帯の車の運転には、すでに限界が来ています。一刻も早く「買い物対策」に手を打つべきと思いますが、町長の考えをお聞かせ下さい。

波賀町上野には「住民の住民による住民のためのスーパー開店」の記事が掲載されていました。

加西では「下里地区の住民有志ボランティア 自家用車で買い物支援 高齢者対象、運行スタート」 この様な記事も掲載されていました。

これを他山の石と思わず、多可町でも早急に対策を講じるべきですが、お考えをお聞かせください。

# 一般質問通告書

【第102回定例会】

多可町議会議員 吉田政義 様  
多可町議会議員 笹倉政芳



受 領 日	番号
令和 2 年 12 月 7 日 午前・午後 8 時 30 分	8

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 交流拠点の再整備を問う	町長
1. 道の駅「山田錦発祥のまち・多可」の店舗と野菜販売スペース及び駐車スペースを拡張整備できないか。 2. 「かみの朝市」を早く交流の場として復活すべきと考えますが計画は進んでいますか。	
2. 事前防災で自然災害に備えよ	町長
1, 森林整備や治水対策計画また、災害による緊急の復旧工事や潜在している箇所の事前防災対策、老朽化しているインフラ整備など安心安全に直結する予算を安定的に確保して取組んでいかなければなりません。	
3.	

## 質 問 の 内 容

### 交流拠点の再整備を問う

「道の駅」は幹線道路沿いに位置し道路交通環境の提供や地域の賑わい創出を目的とした施設で日本全国に約 1.200 か所存在しており、ドライブファンには欠かせない存在となっています。

「道の駅」には「休憩機能」「情報提供機能」「地域連携機能」の 3 つの機能を備えており、駅ごとに地方の特色や個性を表現し、文化などの情報発信や様々なイベントを開催することで利用者が楽しめるサービスを提供しています。

多可町にも国道 427 号沿いに「杉原紙の里・多可」と「山田錦発祥のまち・多可」の道の駅があり、駅長、施設長を中心にスタッフ一同が力を合わせて利用者に最大のサービスが提供できるよう努力いただいているところです。

今後も、更に利用者や地域住民の期待や信頼に応え地域の特色や魅力を発信していかなければなりません課題もあります。その一つが、道の駅「山田錦発祥の町多可」の売り場スペースと駐車スペースが狭いということです。

例えば、最近是多可町の多くの農家が有機、減農薬野菜の生産に取り組んでおられ売り場スペースが足りないので困っておられます。また、イベントを仕掛けるにしても会場設営等に苦慮している現実もあります。

口コミ投稿を検索すると、近くには噴水公園や敷地内にも小川が流れる櫛の森ミニ公園があり都会から訪れる人には喜ばれているようですが一方では、店内の売り場や野菜売り場スペースが狭くゆっくり買い物ができないまた、駐車スペースが狭く入りにくいといった評価がされています。私も、よく立ち寄りますが同じ思いをしています。

こんな課題を解決するために、店舗と野菜販売スペース及び駐車スペースを拡張整備できないかと考えますが、町長の見解を求めます。

また、「かみの朝市」は長年地元野菜を提供してきましたが、今年 9 月から閉所しており地域住民からは「どうなるの」と心配されています。

「かみの朝市」は松が井の水公園や、神河町に通ずる交通量の多い県道 8 号加美・宍粟線沿いに位置し、目の前には二宮荒田神社があり、ゆっくりと散策できるスポットで、ちょっと一休みするには最適なところです。早くここを交流の場として復活すべきと考えますが町長の見解を求めます。

## 事前防災で自然災害に備えよ

近年、地球温暖化現象による自然災害が多発し、甚大な被害の爪痕を残しています。記憶に新しいのが、令和2年7月豪雨災害であります。九州地方を中心に記録的な豪雨となり、熊本県を流れる球磨川が氾濫するなど、流域だけでも50人がなくなりました。大きな被害が発生するたびに、間違いなく、多くの尊い命と財産が奪い去られ、打ちひしがれる被災者の姿を目の当たりにしています。

多可町も過去に大惨事につながりかねない豪雨も経験していますし、その頻度は確実に増しています。

特に森林面積が80%を占める多可町は河川上流部の森林整備を進めなければなりません。そのことにより洪水緩和といった機能が保全され下流部の安全につながります。

今後は、更なる森林整備や治水対策計画また、災害による緊急の復旧工事や潜在している箇所の事前防災対策、老朽化しているインフラ整備などの安心安全に直結する予算を安定的に確保して取組んでいかなければなりません。

先日の臨時議会では国に対しても国土強靱化の取り組みを継続する意見書を全員賛成で採決したところです。

コロナ禍の影響で財政も厳しい状況になってくると思いますが、住民の安全安心が一番であります。選択と集中を念頭に令和3年度の予算に反映していくべきと考えますが町長の見解を求めます。



# 一般質問通告書

【第102回定例会】

多可町議会議員 吉田政義 様  
多可町議会議員 清水俊博 様




受領日	番号
令和2年12月7日 午前・午後8時30分	9

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
<b>1. 大人の引きこもり対策と支援体制は如何に！ (相談から支援へ、具体的取組が今必要)</b>	町長
<p>内閣府は平成31年度3月引きこもり状態にある40～64歳の方が全国で61万3千人がいるという調査結果を発表しました。15～39歳を対象にした結果と合算すれば、全国で約115万人以上の方が引きこもり状態にあると言えます。</p> <p>単純計算では兵庫県で約5万人、多可町では約200人がその状態にあり「8050問題」対策は急を要します。</p> <p>2009年に設置の「ひきこもり地域支援センター」ではスタッフ不足等から「就労」のみに注視し、更なる孤立へと…。</p> <p>「介護、貧困、障がい」等複合的課題を抱えた家庭に対し「具体的支援」がより必要とされます。体制整備等町長の所信を伺います。</p>	
<b>2. ウィズコロナ、アフターコロナにおける多可町財政！   町長 (優先度を考慮し各種事業の精査が必要では)</b>	
<p>新型コロナの感染拡大が止まりません。大阪府で非常事態宣言にあたる「赤信号」が発せられ、正に非常事態の渦中にあります。新型コロナから住民を守る感染拡大阻止事業併せて、町内各事業者の経営状況が大変厳しく更なる支援策を強く望まれています。新型コロナ対策に万全を期すと共に、地場産業の追加支援等財源の確保が必要です。</p> <p>以下伺います。本町の財政の現状から今後予測される厳しい歳入不足に備え ①本年度計画事業の縮小見送り等事業精査の有無 ②次年度事業の財源確保への取り組み 更に③財源の非常に厳しい中、withコロナ、アフターコロナにおける良質な住民サービスをどのように提供していくのか財源確保策含め町長の所信・決意を伺います。</p>	

# 一般質問通告書

【第102回定例会】

多可町議会議員 吉田政義 様  
多可町議会議員 門脇保文 

受領日	番号
令和2年12月7日 午前・午後10時34分	10

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
<b>1. 多可町南玄関口整備事業</b> 西脇市に抜けるトンネル化構想	町長
中山間地域の防災トンネルと位置づけ一日も早く促進すべきであり、多可町の南玄関口の強靱な道路整備事業を早く推し進めるべきです。	
<b>2. 多可町内の税の配分</b>	町長
全国的に少子高齢化が進む中、多可町においても人口減少が進んでいます。各集落内での人口減が問題になり、特に若者の定住が減り、高齢者が増え、各集落として運営が成り立たなくなりつつあります。 このような中において各集落への補助金等についても平等的な配慮が無くなりつつあります。 今後の集落のあり方について、「見直し」する時期が来ているのではないかと懸念しています。	
<b>3. 焼却炉建設について</b>	町長
1、 エネルギー利活用でのメリットについて 2、 30年後を見据えた見解を求める 3、 加古川西部改良区と協定書が破棄になった場合の選択	

## 質 問 の 内 容

### 1. 多可町南玄関口の道路整備事業

平成 30 年 12 月本議会に於いて、発議 6 号「防災・減災に資するインフラ整備促進のための財源確保等具体的な対策を求める意見書」が全会一致で可決をしました。

#### 4. 「国難」をもたらす巨大災害に備え、発災後救援支援活動への支障や社会経済活動の機能不全などを回避するために必要となる強靱な道路ネットワークの整備を促進する事。

25 年前、阪神淡路大震災の時、日本の動脈である国道、中国道等は通行できないそのような事態が発生しました。兵庫県に大きな動脈硬化が起こり、多くの民間の物流道路として日本海側を通行しなければならない状態が続き、日本の産業界、流通、食料、医療等に多くの犠牲が払われた。そのような中、元貝原知事は、「南北の道路は多くあるが、東西の道路は少ない、東西の道路整備をしなければならない」と話されていました。

当時は、神戸周辺の震災だったので救援物資も、復興も早く行われてきましたが、今後 30 年以内に東南海地震が発生するといわれています。

現実に起これば中山間地域と日本海側しか救援活動に行けません。現在の県下の道路状況では、東西の道路整備が出来ていないために物流道路として機能しません。新たに東西の道路を整備するには時間と財源が必要です

今年度より三室バイパスが着工に向けて地元説明会が行われおります。このバイパス道路が完成すると八千代区中野間から加美区まで、信号なしで行けます。多可町の南玄関口として県道大和線から西脇に抜けるトンネルを掘ることにより少ない財源で、防災道路として市川町から西脇市、丹波篠山まで短時間で行く事も可能になります。また、多可町の南玄関口として加美区、中区に行くとき信号が少なく防災道路として分かりやすく安全に渋滞することなく行けます。また、滝野社インターや加西インター。福崎インターにも近くなり、基幹道路になります。現在、多可町に入るための解り易い道路はありませんが、この道路により解り易く案内することが可能になります

このトンネルにより中山間地域の防災トンネルと位置づけ一日も早く促進すべきであり、多可町の南玄関口の強靱な道路整備事業を早く推し進めるべきであると思うが？

### 3. 焼却炉建設について

焼却炉建設に於いて先般説明がありました。

焼却炉 25t/日が 2 基、24 時間体制で 360 日ごみ処理を 30 年間行う。エネルギー利活用に関しては、温水を使った温室栽培等に利用するとの報告があり、夏場には利用できないために検討していると、また、施設周辺の雨水の一部をダムに放流すると報告があり、加古川西部改良区に意見書は提出されているが、協定書には至っていない。との報告を受けましたが、

本当にこの様な一市一町での焼却施設を今の時期に建設することは、時代に即しません。前回も意見しましたが、国の閣議決定で 300t/日で決まっております。今後、1 日 50t/日以下の焼却炉建設は認められませんし、エネルギー活用の面から観ましても夏場の利用が無いにより効率の悪い状況であるために収入がありません。それに比べ四市一町のエネルギー利活用では 4 億円/年の収入が発生します。

30 年後、焼却炉建設も一市一町でされるのか？出来ないでしょう。人口が減る中に於いて 30 年後を視野に入れると、今広域環境の中で議論して良い条件を勝ち取らなくては、ならない時期ではないのか？このまま一市一町で進めると住民負担が北播地域で一番高く付き、30 年後には焼却炉建設が出来なくなるためにどうするのか？

加古川西部改良区と協定書が破棄になった場合どのような選択をされるのか？町長の所見を問います。

# 一般質問通告書

【第102回定例会】

多可町議会議長 吉田政義 様  
多可町議会議員 加門寛治




受領日	番号
令和 2 年 12 月 7 日 午前・午後 11 時 00 分	11

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 新型コロナウイルスの感染について	町長
<p>第3次ピークの最中、兵庫県でも連日100名以上の感染者が出ており、北播磨地域でも感染者数がいよいよ北上してきている状況にあります。</p> <p>感染経路が不明である場合が6割以上を超えている現状を鑑みると、いつ自分が感染していてもおかしくないとも考えられます。そこで、以下の質問をしたいと思います。</p> <p>(1) 37度5分以上の発熱があった場合、風邪・インフルエンザ・新型コロナウイルスなどの原因が考えられますが、かかりつけ医がある場合とない場合の、診察等についてどのような対応をすればいいのでしょうか。当初はとりあえず、加東健康福祉事務所に相談をという話でしたが、テレビを見ているとどうしたらいいのかよくわからなくなっています。</p> <p>(2) 仮に、新型コロナウイルスに感染しているということがPCR検査で分かった場合に、病院や健康福祉事務所からどのような指示が出るのでしょうか。自宅待機を言われても一人暮らしだと食料の心配も出てきます。</p> <p>(3) これらの情報について、詳しく広報に乗せて周知していく必要があると考えますがいかがでしょうか。</p>	

# 一般質問通告書

【第102回定例会】

多可町議会議員 吉田政義 様  
多可町議会議員 酒井洋子 

受領日	番号
令和 2年12月 7日 <u>午前</u> ・午後 11 時 10 分	12

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. だれも取り残さないまちを	町長
<p>12月1日配布の、広報たか1ページめに取り上げていた「自死」の問題は、大変深刻なことです。さまざまな状況や理由があることは、追跡調査である程度把握しているでしょうし「多可町自殺対策計画」では多くの取り組みが計画されています。「だれも取り残されない」「一人じゃない」と安心していただけるまちにするための具体策の検討と実施のスピードを、さらに早める必要があるのではないのでしょうか。</p>	
2. 利用の視点でバス停の整備を	町長
<p>多可町役場バス停は、とてもスタイリッシュな作りです。ベンチも奥の方にあって雨が降っても吹き込まず安心です。ですが、南方向からバスが来るのが見えません。バスを利用するのは運転ができない人で、ご高齢者や妊婦さんなどが多いようです。バスが近づくのを見計らい、やおら荷物を持ち、乗車バスを出して立ち上がって準備したいものです。</p> <p>南側の壁を透明なものに変えるなど、バスが近づいていることが分る工夫ができないのでしょうか。</p>	
3.	

## 質 問 の 内 容

令和2年3月に作った「いのち支える多可町自殺対策計画」で、自死の人数は増加傾向でした。広報たか12月号では令和1年度にさらに多くの方が自死されたことが伝えられ、一層深刻さが増しているようです。

計画の中にもあるように、自死の多くは自らの選択の結果と言うよりも、過労、生活困窮、育児や介護の疲れや不安、いじめや孤立などで心理的に追い込まれた状態であり、防ぐことのできる社会的な問題です。

同計画の中に、生きる支援に関連するあらゆる取り組みを総動員することや、関連施設との連携を強化すること、また段階に応じて総合的に推進することが大事であるとしています。

基本施策としている「地域におけるネットワークの強化」「自殺対策を支える人材の育成」「住民への啓発と周知」「生きることの促進要因への支援」ですが、具体的にどのようにしていて、その手ごたえや問題点などはどうなのか、取り組んでみて分かったことを教えてください。

多可町では「子ども・若者」「高齢者」「生活困窮者」を対象とした施策を重点的に進めているとのことですが、特に力をいれたい若者の就労支援など、生きることへの包括的な支援は、どのような進捗状況なのでしょう。

また、高齢者本人や家族の病気や孤立、介護や生活困難などの支援では複合的問題が増えていて、支援の啓発と実践を強化すべきところでしょうか、具体的にどのようにできているのでしょうか。

また生活困窮している人への支援の強化という点ですが、コロナ禍関連の困窮も増えているでしょうし、さらに対策が急がれるところです。GoTo事業の継続は決まり経済は止めないと政府は決めたようです。一方で感染リスクが高まる場面などを示し注意喚起され、個人個人の自粛を求められる年末を迎えようとしています。

非正規の人は、仕事が減ったり、契約満了での雇止めも深刻でしょう。企業では経営不振などの深刻さも増してくるの見込まれます。自死防止の観点からも、新型コロナ対策は切っても切れないもののはずです。

だれも取り残さないためには、積極的に住民の状況を知って対策をする必要があるのではないのでしょうか。何に困っているのかが分かればどう支援すべきかがハッキリすると思います。住民アンケートなどで実態を調査するべきではありませんか。

そして、福祉相談支援課を全ての問題を受け付ける窓口だとハッキリ周知し、住民に徹底的に寄り添う場所に、また住民が「ここに行けば聞いてもらえ

る」と信頼を寄せられる場所であるべきです。今後どのような取り組みをするのかお聞かせください。

多可町役場が新しくなった時にバス停も一新されました。とてもカッコよくて雨風を防いで、南側は陽ざしも遮るため暑さもしのげて素敵だなと思っていました。

2か月ほど前に、いつも役場バス停から乗車する10人ほどのグループを代表するある人から「役場でバスを待っていたけど、バスが止まらず通過した」ということをお聞きしました。

加えて、バスが近づくのがベンチにいると見えないこと、足や腰に不安があるので早めに荷物をまとめたり、乗車パスを出すなどして準備ができないと不安だということをお聞きしました。

わたしはその時はじめてバス停のことをじっくり考えました。日ごろバスを利用していませんので、利用するならどうあって欲しいかということに、想像が及んでいなかったことに反省の思いを持って改めてバス停を見てみました。確かに南側と天井は黒い鉄板がひとつながりになっていて、全く見えない状態です。当然バスの運転手さんからも中は見えず、バス停の前に来なければ分かりません。たまたまバスを待っていた若い女性がいらしたのでお聞きしたところ「こちらが（南側）透明だといいのにといつも思います。」と答えてくださいました。ご高齢の人だけがそう思っているのではなさそうです。

すぐに企画秘書課に伝えたところ、神姫バスと話をしてくださり「バス停には必ず停まること」を周知徹底して下さったということですので、乗り過ごす心配はなくなったかもしれません。ですが、バスを利用されるのがどんな人たちなのかを考えた時、改善する必要があるのではないのでしょうか。

わたしが関東で仕事の移動に利用していた路線では、全てのバス停に「●●行のバスは、○○バス停を出て何分後にここに到着」のような電子表示があって、時間も読みやすかった記憶があります。

壁を透明にすることに限りません。その気になればいくつか方法があるはずです。いずれにせよ、運転ができず移動の自由度が低い利用者みなさんに、少しでも快適に公共交通であるバスをご利用いただきたいものです。

また、利用者の立場で考えることは、バス停のことだけではなくさまざまなことに通じるのではないのでしょうか。

今後ますます利用が増えることを予定している公共交通は、利用する人のためのものであるべきです。どのような方向で検討されるのかをお聞かせください。



# 一般質問通告書

【第102回定例会】

多可町議会議長 吉田政義 様

多可町議会議員 日原茂樹



受領日	番号
令和 2年12月 7日 午前・午後 // 時45分	13

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 地域商社で多可町創生に取り組め	町長
別紙詳細	
2. 学力向上の取り組みは進んでいるのか	教育長
別紙詳細	
3.	
別紙詳細	

## 質 問 の 内 容

### 地域商社で多可町創生に取り組み

人口減少・少子高齢化が急速に進み、地方の抱える課題が深刻さを増している中、地域経済の振興策として、企業誘致や公共投資は多くの地域で限界を迎えているといわれています。多可町においても、産業振興として企業誘致活動は行われていますが、活発な動きとは言いがたい状況であると思われま

す。全国的に見て、地域外からの投資に期待する政策は陰りを見せ、代わりに地域が自らの資源、環境、人材、産業などを活用し、地域の中で発信や販売を担い経済の活性化を目指すという新たな動きが出ています。これは新たな地方創生の方策として注目を集めている「地域商社」という考え方です。

地域の多くの関係者を巻き込み、農産物などの地域の資源をブランド化し、生産・加工から販売まで一貫してプロデュース・販売する組織のことです。

国でも、まち・ひと・しごと創生本部が地域商社事業の設立・普及を重要な取り組み分野として取り上げ、地方創生推進交付金により、地域商社事業の設立・機能強化に向けた取り組みを支援しています。

各地で展開されている地域商社の一例として青森県・八戸商工会議所の有志が中心となり設立された「ファーストインターナショナル」があります。東北産の冷凍水産物、生鮮リンゴ、長芋などをアジア圏に輸出し、各国からの輸入販売も行う地域密着型の貿易商社です。また、宮崎県児湯郡の新富町役場が出資し設立した「こゆ財団」は、新富町の特産品を軸に商品開発、販売促進を行い、国産ライチのブランド化やふるさと納税を運営し、起業家育成にも力を入れています。

多可町でも令和2年度から地域商社を立ち上げ、新たな地方創生に取り組んでいます。町内で生産された農産物や加工品などの販売による地域経済活性化において、ただ販路の開拓を行うだけでなく、生産段階から流通・販売までを一貫して見据えたマーケティングを行う存在が必要です。まさにこの存在となるのが「地域商社」です。つまり、地域商社とは、「地域で地域産品のマーケティングを担う地域発の主体・プロジェクト」といえます。

この地域商社に、地域おこし協力隊が10月から1名、令和3年度の4月から1名参加され、3名体制での取り組みになります。

コロナ禍の中、多可町創生の切り札となりうる「地域商社」をどのように活用し、さらには人材育成などに取り組んでいくのか町長の所見を伺います。

## 学力向上の取り組みは進んでいるのか

国では義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善をするためや、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために、全国学力・学習状況調査を実施しています。

日本全国の小中学校の最高学年（小学6年生、中学3年生）全員を対象として行われているこの全国学力テストでは、多可町は毎年全国平均と同程度かやや下回るという結果になっています。

この結果を受けて多可町では、平成30年度より授業力強化、家庭との連携強化、組織力の強化の3本柱で「多可町学力向上3か年計画」を策定し、学力向上に取り組んでいます。町が独自に行う全国規模の学力テストでは小学校においては6学年中4学年が国語、算数とも全国平均を上回るなど少しずつ成果が表れています。

しかし、全国学力・学習状況調査の結果では全国平均を上回るところまでにはいっていません。令和2年度からは「多可町学力推進アドバイザー」を各学校に派遣し、教員の指導力向上と児童・生徒の学力向上に取り組まれています。この成果は表れているのですか。

子ども達の評価は学力が全てではありませんが、子ども達が将来、豊かな人生を送る上で学力を身に付けておくことは有効な手段の一つであると考えます。変化の激しい社会を生き抜いていくためには、義務教育修了段階で子ども達にしっかりと知識を身に付けさせることが重要です。

「子育てするなら多可町」をキャッチフレーズにするのなら確かな学力は絶対必要なものとなります。若者が多可町への移住・定住を考える上でも一つの重要なキーワードです。

「多可町学力向上3か年計画」は今年度が最終年度となっていますが、この3年で子ども達の学力向上に向けどのような成果が出たのでしょうか。また「第2次多可町学力向上3か年計画」をどのような形で策定され、学力向上に取り組まれるのか、教育長の所見を伺います。